Rotary International District 2500

Governor's Monthly Letter 2019▸2020

ロータリーは
世界をつなぐ

霧で霞みはじめる夜の幣舞橋

Vol.12 ガバナー月信
2020.6.1

Rotary

―― 地区活動方針 ――

「知らずて語れず！」

CONTENTS

ガバナーメッセージ …… 1
特別寄稿 …… 2
My Rotary登録状況・年次基金寄付状況報告 …… 3
誌上ＩＭ …… 4
ネット例会及び理事会、委員会開催の奨め …… 9
ロータリー平和フェローシップ …… 10
グローバル補助金奨学生レポート …… 13
ハイライトよねやま …… 17
コーディネーターＮＥＷＳ …… 19
ロータリー文庫 …… 21
新入会員・寄付者・物故者 …… 22
例会出席率及び会員数推移

ガバナーメッセージ

2019−2020年度
国際ロータリー第2500地区ガバナー
吉　田　潤　司
（釧路ロータリークラブ）

2019－2020年度もあと一ヶ月を残すのみとなりました。いろんなことがあったこの一年間、前期は大忙し、後期はまさかの新型コロナウイルスで開店休業と印象に残る一年間でした。

多くの仲間に恵まれ、いろいろなところを訪れて歓迎され、かけがえのない友達もたくさんできました。ありがとうという感謝の言葉しかありません。

IMで2500地区内にできた多くの仲間に再び会えると楽しみにしていたのに、憎き新型コロナウイルスのせいで、すべて中止になりその夢をかなえることが出来ませんでした。

ガバナー補佐の皆様も残念でしたでしょうが、私もとても残念です。

さて松田年度も準備ができました。先般最後の大行事の地区協議会も全体会議と５分科会をそれぞれに分けて、Zoomにより終了しました。準備はすべて整いました。

松田エレクトは、中国、韓国でコロナ騒動が起きたころのかなり早い時期より、ひょっとしたら全体で集まっての会議はできないかもしれない。その時どうしたらいいかと考え、ウェブ会議の事前準備をしておりました。まさに危機管理に対してリーダーとしてお手本になる素晴らしい準備をされました。ウェブでの会議セミナーを実施している地区はまだ少なく、聞くところによると急いでウェブ会議を模索していると聞いています。

ウェブ会議は、意外に集中でき、発言もでき、参加している人も一目瞭然で、全体の様子もわかるので、集中せざるを得ずかなり疲れることも確かでした。

新型コロナウイルスが終息した時、世の中は新しい世界になるのではと言われています。テレビ会議がごく普通になり、地方から本社に集まっての全体会議は、多くがウェブ会議に成ったり、テレワークが広まったり、ペーパーレスも当然広がると思います。

また新型コロナウイルスのように、ワクチンもない疫病が世界的に蔓延するいわゆるパンデミックの恐れは、必ずまた来ます。今回の事態に対し、やはり日本は油断していた、なんの用意もしていなかった、方針も未定でした、法律も整備されていなかったと思います。

私権を守るのか公共の安全を守るのかも国は方針を決めなければなりません。今回の特措法も反対意見もあり政府が考えていた法律から大幅に緩くなったように見えます。

私権を制限するためには、国民も協力しなければなりませんが、信頼できる政府も必要です。政府が国民を絶対守るという意思を示し、国民がそれを信頼しなければ前に進みません。

アベノマスクも私は賛成派ですが発注経緯が不透明、こんなところにもし利権が発生していたら、国民は信頼感を持てなくなります。やはり公明正大が必要です。

今コロナ騒動を見て、日本はやらなければならないことを先送りしてきました。パンデミック発生時の医療体制をどうするか、国民に何を求めるのか、どういう補償をするのか、他たくさんあります。パンデミックはまた必ず発生します。次に備えるためにも国は、真摯に検証し、過去の反省をもとに安心できる方針と準備をしてほしいと思います。

◆ 特別寄稿 ◆

「四つのテスト」カードを用意しました。

国際ロータリー第2500地区ガバナー
吉 田 潤 司
（釧路ロータリークラブ）

昨年６月ドイツハンブルグのロータリー国際大会に参加した際、リューベックという世界遺産の街を訪れました。

雨模様の中でリューベックの街に着いたとき、街中で道路に駐車している車が全くないので、聞いてみるとドイツは、駐車可のところでのみ駐停車できるので、それ以外の道路で違法する車はないと、日本とは全く比べ物にならないほどの順法精神でした。

駐車可の道路でも降車したあとバスはすぐ移動しました。これもすごい。エルベ川添いのリゾート地に到着。すごくきれいで、こんなところに住みたいと思うくらいでした。

お店の前にも一時駐車の車もなく、皆当たり前のように駐車場から歩いていました。

帰りに、少し雨が降ってきたとき事件が起きました。同行していた一見紳士風のロータリアンが、添乗員に「おい、駐車場まで歩く？馬鹿言うな。雨降ってくるぞ。すぐバス呼べ！」「ここは駐車できないのでバスを呼ぶのはダメです」「バス呼んでとび乗りすればいい。たいした時間かからない。」「できないです。ドイツはそういう国です。」「おまわり来る迄時間かかるから、大丈夫だ。急いで乗ればいい。すぐ呼べ！」だんだん声を荒げて大騒ぎ。添乗員はできませんと頑張る。結局駐車場まで歩きましたが、最後までぶつぶつ。私は添乗員に「大変ですね。あの人も多分普段は立派なロータリアンで地元では尊敬されている人と思います。外国に来たので、少し緩んだみたいで。」「いいえ。ロータリーの人が、文句言うのはしょっちゅうです。慣れていますから。」まさに言葉の端々に、「何がロータリーだ、偉そうに」と思っているのが明らかに分かりました。でもこの添乗員の気持ちは、よくわかります。

一見紳士風のロータリアンに聞いてみたかったです。「あなたはロータリアンですか？今の言行は、四つのテストと正反対の言行ですがいかがですか？例会では四つのテストを斉唱していますね。」注意できなかった私もロータリアン失格でした。

私は「言行はこれに照らして」という四つのテストは、ロータリアンの究極の姿と思っています。私たちはこのようになれるよう修行しているのではないでしょうか。

公式訪問で多くのクラブが四つのテストを斉唱していました。ロータリアンには身に染みついている四つのテストですが、どんなときにも意識することには難しさがあります。

人は誰もが、向上心を持っています。自分をもっと成長させたい。事業を発展させたい。地域をよりよくしたい。多くの親友を得たい。充実した人生を送りたい。世界の人々のために何かしたい。それらの土台が四つのテストではないでしょうか。

今回2500地区会員皆様に「四つのテスト」カードを用意しました。「四つのテスト」カードを常に持ち歩き、リューベックの事件のようにならないよう、私もそうですが、言行はこれに照らしてという思いです。

もし腹が立ったら、クレームを言いたかったら、自分の思いと違っていたら・・・・胸の「四つのテスト」カードをそっと触ってください。言行はこれに照らしてから。

My Rotary登録状況 ・ 年次基金寄付状況報告

分区	クラブ	My Rotary登録状況		年次基金寄付クラブ
		登録率%	地区内順位	
1	礼文	13.33	52	○
	利尻	38.89	9	○
	利尻島	16.67	45	○
	天塩	12.50	55	○
	豊富	19.05	35	○
	稚内	6.98	63	○
	稚内南	8.33	61	○
2	美深	26.92	20	
	枝幸	3.85	67	○
	名寄	19.67	34	○
	中頓別	33.33	13	○
	士別	27.08	19	○
	下川	16.67	45	○
3	旭川	17.14	43	
	旭川東	18.18	36	
	旭川北	34.09	12	○
	旭川南	12.50	55	○
	旭川西	18.00	40	○
	旭川東北	26.67	22	○
	旭川M	91.30	3	○
	旭川空港	30.77	14	○
	美瑛	17.86	41	○
	富良野	36.96	11	○
	上川	10.00	58	○
	Eクラブ	100.00	1	○
4	遠軽	9.76	59	○
	紋別	6.45	65	○
	紋別港	25.00	25	○
	中湧別	18.18	36	○
	興部	13.33	52	○
	雄武	15.38	50	○
	滝上	17.65	42	○

分区	クラブ	My Rotary登録状況		年次基金寄付クラブ
		登録率%	地区内順位	
5	網走	30.77	14	○
	網走西	5.77	66	○
	美幌	6.90	64	○
	北見	16.36	49	○
	北見東	16.67	45	○
	北見西	23.81	29	○
	清里	40.00	7	○
	留辺藥	18.18	36	○
	斜里	20.00	33	○
6	足寄	16.67	45	○
	広尾	18.18	36	○
	上士幌	26.67	22	○
	芽室	7.14	62	○
	帯広	37.50	10	○
	帯広北	27.69	18	○
	帯広西	17.11	44	○
	帯広東	12.82	54	○
	帯広南	40.28	6	○
	音更	25.71	24	○
	清水	22.22	30	○
7	釧路	42.00	5	○
	釧路東	20.59	32	○
	釧路北	26.92	20	○
	釧路南	30.00	16	○
	釧路西	29.63	17	○
	釧路ベイ	100.00	1	○
	音別	25.00	25	
	白糠	50.00	4	○
8	厚岸	25.00	25	○
	別海	11.76	57	○
	浜中	25.00	25	○
	中標津	9.52	60	○
	根室	13.51	51	○
	根室西	39.62	8	○
	弟子屈	22.22	30	○

（記載の記録は５月10日時点でMy Rotaryに反映されているものです）

地区内８分区でのIMが、新型コロナウイルスのため全て中止となりました。
そこで、準備されてこられたガバナー補佐の方々からコメントをいただきました。

もしIMを開催していたら…

第６分区ガバナー補佐
大　友　広　明
（帯広西ロータリークラブ）

本日、IM（都市連合）の開催にあたり主催者として一言御礼とご挨拶を申し上げます。

分区内11クラブのロータリアンの皆様には多くの方々に登録を頂き、誠にありがとうございます。そして、この様に盛大に開催できます事を心から感謝申し上げます。

さて、IMとは「Intercity　Meeting」の省略で都市連合会の事であります。分区内の11クラブ会員が集まり、交流をはかり知識を広め深めるとともに親睦をはかる会合であります。

今年度のテーマは「ロータリーの絆　私たちの目指すべきもの」であります。

私たちロータリアン最大の目的は広く地域社会で奉仕活動する事です、その中でも米山記念奨学会とロータリー財団、この二つも大事なロータリアンの奉仕活動です。そして、今年は私どものロータリーでお世話をして自国に戻られて活躍されている奨学生でスリランカのダクシカ・スナマシリさんをお招きしての講演とさせて頂きました。

奨学生の時、ロータリアンとの関わり、地域の人たちとの出会いでどんな絆が生まれたかお話し頂けると思います。そしてそれをこれからのロータリーの活動、奉仕活動にお役立て頂ければと思います。

最後になりますが、本日参加いただきました皆様、そしてこの会を準備して頂いた古田実行委員長をはじめ帯広西ロータリークラブ、清水ロータリークラブ、上士幌ロータリークラブ会員の皆様に心から感謝申し上げご挨拶とさせて頂きます。

こんなIMを予定していました

第７分区ガバナー補佐
加　納　則　好
（釧路西ロータリークラブ）

国際ロータリー第2500地区、第７分区開催予定（2020年３月14日）のIMを中止させて頂きました。新型コロナウイルスの感染が北海道でも蔓延し始め、吉田潤司ガバナーはじめ分区内の皆様の健康、安全を最優先し苦渋の決断でございます。第７分区８クラブの会長幹事様はじめロータリアンの皆様におかれましては準備段階から多くのご協力を賜り、敬意と感謝を申し上げます。また、折角ご予定を合わせて頂いたにも関わらず、皆様に大変なご迷惑をお掛けしました事を深くお詫び申し上げます。

テーマは「築いた歴史を顧みて、未来に拡げよう奉仕の心」を掲げ、第７分区８クラブの豊富な知識や経験をお持ちのベテランの方々をお招きし、知恵と努力を積み重ねながら築き上げてこられたクラブの成り立ちやその思いを学び、７分区の輝く明日に繋がる機会として考えておりました。またロータリーの存在そのものが街の文化と言われております。文化芸術は様々な切り口がありますが、今回のIMでは地元釧路出身の直木賞作家桜木紫乃さんをお迎えし、今年の冬全国公開される「ホテルローヤル」の映画化など、くしろの風土から生まれる文化や釧路の魅力についてご講演を頂く予定でした。そして友愛の宴では皆様と杯を酌み交わし、大いに語り合い、さらなる７分区の「絆」を深めたいと楽しみにしておりました。誠に残念ですが今はとにかく感染の終息を願うしかありません。

ホストクラブの釧路西ロータリークラブ様は那知哲実行委員長を中心とし、平会長はじめメンバーの皆様はご苦労を重ね準備を進めてまいりました。あとは本番を待つのみと心待ちにしておりましたが直前で中止を余儀なくされました。釧路西ロータリークラブ様のこれまでのご努力に心より敬意と感謝を申し上げます。

IM中止のご報告

第７分区ＩＭ実行委員長
那　知　　哲
（釧路西ロータリークラブ）

2019～2020年度IM実行委員長を仰せつかりました釧路西ロータリークラブの那知哲です。

今年度のIMは、2020年３月14日土曜日午後１時30分から開会の予定でした。

第７分区加納則好ガバナー補佐及び平信二釧路西ロータリークラブ会長をはじめとする当クラブ会員全員が一体となって、素晴らしいIMにしようと準備しておりました。

その結果、メインプログラム「築いた歴史を顧みて、未来に拡げよう奉仕の心」、サブテーマ「爽やかな文化の風香る、くしろの街のロータリー」が決まりました。

第１部の基調講演は作家の桜木紫乃様をお招きして、「爽やかな文化の風香る、くしろの街のロータリー」をテーマとしてお話を頂き、第２部はパネルディスカッションとしまして、各クラブチャーターメンバー又は昭和からの入会者より、各クラブの思い出・歴史を話して頂くことになっておりました。

同日午後５時から閉会セレモニーとして第７分区吉田潤司ガバナーのまとめ、懇親会は午後５時45分からゆっくり食事をとりお酒を飲みながらロータリアンの交遊を深める予定でした。

そのため、加納ガバナー補佐とともに７クラブに挨拶に赴いて皆様にご参加をお願いし、多くの分区会員からご出席を頂けるとのご返事を頂いておりました。

しかしながら、昨今の新型コロナウイルスの影響によりIMを開催することが極めて困難な状況になり、誠に残念ながら開催を中止とする決定が下されました。

予定どおりIMが開催されましたら、上記のような素晴らしいIMが開催され、第７分区の会員の皆さんと深い交流が出来たと自負しております。

しかし、昨今の状況を考えますと、中止はやむを得ないものです。

願わくば、新型コロナウイルスの流行が一日も早く収まり、世界中が新型コロナウイルスの恐怖から脱し、平穏な社会が実現し、来年のIMが滞りなく開催されるよう願っております。

「幻」のIM

第８分区ガバナー補佐
今井善昭
（弟子屈ロータリークラブ）

地域と世界を繋ぐ

人災であればまだ諦めも付くが（恨みと共に）、今回は天災でなおかつ何とも言えないおかしな敵（恨みの先もない・・・）。そんな中で、今回のIMは「幻」となりました。

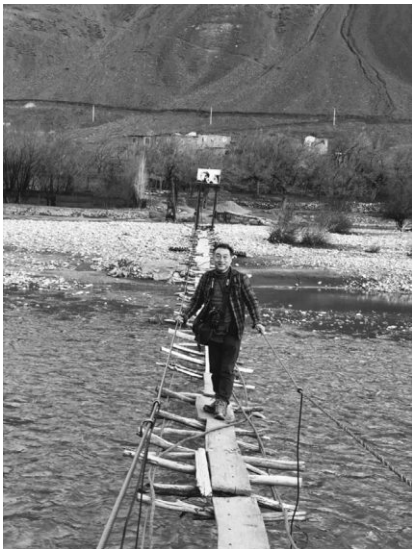
IMではRI会長の「ロータリーは世界を繋ぐ」というテーマに沿い（私はロータリーはインターナショナルであるべきという気持ちを持っています）第８分区IMのテーマは「地域と世界を繋ぐ」と決め、特別講演と地区補助金事業紹介の二つでテーマを表現する予定でした。講師は釧路出身の世界的写真ジャーナリスト長倉洋海さん。１年以上前からお願いしていました。長倉さんは1952年、北海道釧路市生まれ。同志社大学卒。1980年勤めていた通信社を辞めフリーの写真家となり、以降、世界の紛争地を精力的に取材します。

長倉洋海氏

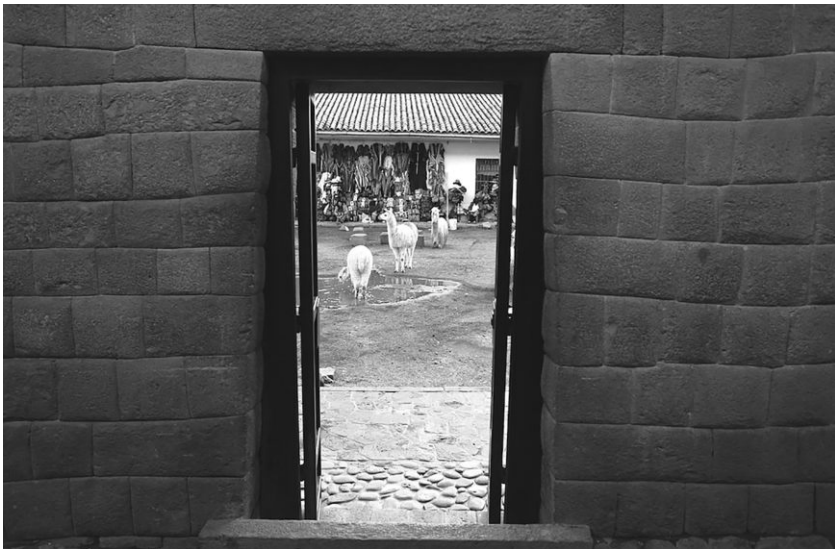
長倉氏は、アフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘースを長いスパンで撮影し続けました。戦争の表層よりも、そこに生きる人間そのものを捉えようとするカメラアイは写真集「マスード　愛しの大地アフガン」「獅子よ瞑れ」「サルバドル　救世主の国」などに結実。第12回土門拳賞、日本写真協会年度賞、講談社出版文化賞などを受賞しました。2006年には、フランス・ペルピニャンの国際フォトジャーナリズム祭に招かれ、写真展「マスード　敗れざる魂」を開催、大きな反響を呼びました。2004年「アフガニスタン　山の学校支援の会」を立ち上げアフガニスタンと日本を繋いでいます。そんな意味でもロータリーの国際奉仕との関わりがあります。

写真は世界を繋ぐ

予定していた幻の講演テーマは「写真で繋ぐ世界」。取材を通し世界と日本をつなぎ人々に感銘を与えてきた事柄を今回は直接お聞きし、私たちにとって新しい国際的社会奉仕活動が出来るようになればと願っていました。（勿論今も願っています）また講演を一般公開することによりロータリアンのみならず多くの方々に聞いていただくはずでした。この世界的な災害の収束後、IMで叶わなかったこの公演をなんとか行いたく思っています。その時には長倉氏の公演に是非お越し下さいませ。



紛争地の吊り橋を渡る



不思議な形状をした建築物の向こうに生活が見える

地域社会奉仕事業で繋ぐ

IMのもう一つの核が地域社会奉仕の報告です。「過疎地の子ども達に贈る芸術体験及び鑑賞プロジェクト」これが弟子屈RCで行った地区補助金を活用した社会奉仕事業の名前です。アーティストやパフォーマーが講師となり、こども園、小学校、中学校などの子ども達を対象に芸術授業を行いました。

国内アーティストや海外からのアーティストによって作られた雪杜野外美術館の鑑賞、演劇家による短編演劇鑑賞など普段出来ない本物の芸術鑑賞。さらに教員経験を持つ美術、書、音楽講師による芸術体験などを実現しています。また、２月の川湯温泉は海外からの観光客が多い時期です。雪杜野外美術館の鑑賞は一般の観光客にも開放され昨年は1500人が鑑賞するなど地域の観光振興にも役立っています。

野外美術館の作品制作には海外からの作家（Mexico、Taiwan、France）も招聘。さらに、演劇家OGGによる日本の茶道文化を取り入れた短編演劇は約１ヶ月連続で行われ海外の方々への日本文化を紹介、国際平和の一端を担っています。また、これら文化活動は地域の文化意識の向上にも役立っています。昨年「意義ある奉仕賞」に選ばれたこの事業、2020年には２校２園が参加しました。

また、来弟子した芸術家やパフォーマーには芸術制作、鑑賞、体験の仕事以外にも動いてもらいます。（使い倒します・・(^_^)）

2019年夏に行った「OGGと昭和歌謡を歌おう」プロジェクトでは、高齢者、障がい者施設，幼稚園など４カ所への慰問を行いました。「冬にも来てほしい」とのリクエストに対応し、2020年２月には邦楽家伴英将氏、書の伴蒼翠氏、インドネシア伝統芸能師ローフィット・イブラヒム氏等の芸術家やパフォーマーが施設を慰問し入所者を楽しませました。

野外美術館の作品を鑑賞する小学生

小学生への授業を行う美術家小林大悟

左 作品製作中のルア･リベラ（Mexico）

右 劇中の演劇家 OGG

高齢者施設を慰問するローフィット･イブラヒム（Indonesia）

地域社会奉仕でありながら同時に世界と繋ぐ

IMではこのことを伝えたかったのですが、逆にこの紙面により、８分区だけではなく2500地区全体にこのコンセプトを広報するチャンスをいただけたと嬉しく思っています。私のクラブもこのコンセプトを大切にしながら来年度も事業を行っていこうと考えています。しかし、「今年の災害」の影響で「大変良い授業であり子ども達も楽しんでいたが学校などは授業日数が足りず来 年は対応が難しい。」と既にメールをいただいた学校もあり、たいへん残念に思っています。

災害との戦いに繋ぐ

ロータリークラブは第二次世界大戦という大変な災害をも乗り越えてきました。戦争は人と人、国と国、その関係性から生まれ、終わっても弊害を残します。しかし、「今年の災害」は人と災害原因の戦いであり、今こそ世界が団結し撲滅に向けて邁進すること・・デスよね。

「今年の災害」に対しロータリーはどのようなことができるのか。改めて深く考えてみる機会かな・・と。

ロータリーでは実行していますよね。

既に「ポリオ」への対応で。

第2500地区パストガバナーの小船井（釧路ロータリークラブ）です。
次年度のための地区研修・協議会が3月7日・8日にウェビナー（ネットセミナー）で開催しましたが、第一分科会で私から次年度クラブ会長に、クラブでの例会、理事会、委員会等のオンライン会議開催を推奨しました。
そこで、全国規模の会合で芦屋の田中パストガバナーが主催する、ロータリーの源流を学ぶ会があります。その源流の会の理事会がオンライン会議で開催され、私も出席しました。
そのオンライン会議で、私から2500地区のウェビナー、オンライン会議の報告をさせていただきました。それを受けて、源流の会の佐世保の中島氏が添付のネットによるクラブ活動の勧めを寄稿していただきましたのでご紹介いたします。

参照：「源流の会」HPアドレス　https://genryu.org/rotarian/

ネット例会及び理事会、委員会開催の奨め

第2740地区
中　島　閏　二
（佐世保北ロータリークラブ）

「新型コロナウィルス」の影響で皆様のクラブは、クラブ例会や理事会の休会が余儀なくされていると思います。この感染症がいつ終息するか分からない状況の中、ロータリークラブの活動も大きく制限されています。
そこで今、話題になっているインターネットを利用したネットミーティング（会議）やネットセミナー（ウェビナー）が注目を集めています。
国際ロータリーも、今ネットミーティング（会議）やネットセミナー（ウェビナー）を利用したクラブ例会や理事会の開催を推奨いたしています。そして、すでに国際ロータリーや一部の地区やロータリークラブは上記システムを利用しての例会や理事会を開催いたしています。
例をあげますと北海道の2500地区においては、地区協議会やPETSなど全てこれらのシステムを利用して行ったと聞き及んでいます。
直接対面の例会や理事会、委員会の開催が難しい中、このようなシステムツールを導入しネット例会や理事会などを行ってみられてはいかがでしょうか？導入費用はとても安価で2,000円/月（グレードによって違う）程度です。地区やクラブがひとつのアカウントを取得し地区ガバナー、クラブ会長さんなり幹事さんが中心となって運用していただければ、会員の皆さんは地区行事やネット例会、理事会に無料で参加することができます。
外出自粛要請で家に引きこもりがちの今、ストレスも日増しに溜まっているのではないでしょうか？
このような時こそ、ネットミーティング（会議）システムを利用して会員の皆さんと顔を見ながら会話をすればストレスも解消するのではないでしょうか。
「源流の会」においても既に、これらのシステムを導入しネットミーティング（会議）やネットセミナー（ウェビナー）を開催いたしています。
最近のテレビ番組でもニュースや報道番組などは直接スタジオでの対面を避け、ネットミーティング（会議）システムなどを利用し出演者の新型コロナウィルスからの感染を防いでいる番組にしているようです。
国際ロータリーが推奨するネットミーティング（会議）システムツールはZoomというツールです。他にも多くの同じようなネットミーティング（会議）システムツールがありますので皆様のクラブに適したものを選んで活用して下さい。

ロータリー平和フェローシップ
ロータリー平和センタープログラム
国際基督教大学（ICU）のカリキュラム

ロータリー平和フェローシップ小委員会
委員長 河　﨑　髙麗男
（旭川モーニングロータリークラブ）

地球上には絶え間なく紛争が続いている。人類は第二次世界大戦という未曽有の大戦を経験した後にも、冷戦とその代理戦争を世界各地で経験した。更に20世紀の終わりに冷戦が終わると同時に、更に多くの極地的な紛争が頻発している。紛争は政治・イデオロギー対立、人種対立、宗教対立、経済利害対立等、様々な原因によって引き起こされている。人類にはいつ平和が訪れるのか、多くの人々が平和を願っているはずなのに。

平和構築と紛争解決を誰がリードするのか？この命題に対してロータリー財団は、ロータリーの創始者ポール・ハリス氏の逝去50周年を記念し、2002年、ロータリー平和センター・プログラムを設立しました。

このプログラムのビジョンは、ネットワークで結ばれた平和構築者と地域社会のリーダーが、世界各地で紛争の予防と解決に取り組み、持続可能な平和を実現することです。

ロータリーは、世界競争性の下で選ばれた優秀な候補者に対し、ロータリー平和センターで学ぶためのフェローシップ（奨学金）を提供します。平和の推進をライフワークとする平和フェローたちは、卒業後、各国の政府、非政府機関、軍隊、警察、または国連や世界銀行などといった国際機関の要職に就くことも少なくありません。

一般的なグローバル人材の育成とは、やや異なった、非常に特化された重要テーマに挑戦するICUの人材養成プログラムを紹介しましょう。

国際基督教大学（ICU）は「責任ある地球市民を育てる」という教育理念のもとに、アジアで唯一のロータリー平和センターとして、国際ロータリー財団からの資金を得て、国際平和と紛争解決に資する人材を養成しています。

戦後75年間の平和を満喫してきた日本には、世界の平和と紛争解決に役立つ人間は真に少ない。「ロータリー平和フェローシップ・プログラム」はそのような平和と紛争解決に役立つ人材を育成しようとするプログラムです。

世界人権宣言を重んじ、責任あるグローバル市民を育み、世界平和実現に資することを目的としたICUの教育にとって平和研究は一つの柱であり、その意味でもICUにロータリー平和センターが設置され、本プログラムを通じて平和に貢献する人材を育成できることは大変意義深いものです。

＊「修士号プログラム」では、各大学の大学院に正規学生として在籍し、平和と紛争解決分野における修士号を取得する。プログラム期間は各大学院の課程により異なるが、15～24ヶ月間である。修士号取得プログラムを提供する大学は以下の通り。

・国際基督教大学（日本）

・ブラッドフォード大学（イギリス）
・デューク大学／ノースカロライナ大学チャペルヒル校（２大学による共同運営）
・クイーンズランド大学（オーストラリア）
・ウプサラ大学（スウェーデン）
＊「専門修了証プログラム」では、３ヶ月間の短期集中トレーニングを通じて、専門修了証を取得する。タイのチュラロンコーン大学とウガンダ・カンバラのマケレレ大学（2021年４月より開校）がこのプログラムを提供している。

ICUの平和フェローは、大学院アーツ・サイエンス研究科博士前期課程において、平和研究専修のある公共政策・社会研究専攻に正規学生として所属する。毎年10名程度を受け入れており、設立当初（2002年）からの修了生はこの６月で140名を超える。国籍はアジア、北中南米、アフリカ、ヨーロッパなど多岐にわたり、そのバックグラウンドも様々です。

平和フェローの入学時期は９月、卒業時期は翌々年の６月であり、２年間（計６学期間※）の在籍期間中に必要要件単位数を取得し、修士論文を執筆し平和研究修士号を取得する。授業および研究指導は英語で行われる（公共政策・社会研究専攻では英語での開講科目割合が70－80％であり、英語のみでの科目履修および修士論文執筆が可能である）。平和研究カリキュラムは、平和フェローは２年間の内に大学院の修了要件単位（30単位）を満たしつつ、「ロータリーコアコース」とよばれる所定の大学院科目の単位を必要数取得することが求められている。平和研究という学際的な分野であり多様な平和フェローのニーズに対応すべく、幅広いカテゴリーから選定されている。

◎必修コアコース（１科目２単位）：・平和と紛争解決Ⅰ　◎選択コアコース（下記のなかから４科目、８単位を選択）：・平和と紛争解決II・社会問題と政策・暴力の人類学・国際法Ⅰ、II・国際開発法・宗教・紛争・人間の安全保障・平和心理学特論・平和思想・安全と紛争解決・グローバル・イシュー（国連大学グローバル・セミナーとの協働科目）・平和とサステイナビリティ・ジェンダーと平和・人権論Ⅰ、II・国際機構論など

ICU大学院では他大学院との教育交流・単位互換を積極的に行っており、単位互換制度のもとで協定校において科目履修し取得した単位は、ICU大学院の修了単位に認定することができる。特に平和フェローに関連するものとしては、国連大学サステイナビリティ高等研究所大学院プログラムと、東京外国語大学総合国際学研究科国際協力専攻が提供する平和構築・紛争予防専修コースがあり、毎年一定数の平和フェローが単位取得しているようである。

平和と紛争解決分野（あるいは人間の安全保障といった関連分野）における主要な理論的視点について学んだのち、自身が選ぶケーススタディにそれらを応用するよう求められる。最終的には、既存の理論付けの限界について考察し、個別のケーススタディによりふさわしい別の選択肢を探り、提示することが推奨されている。

平和フェローは在学中、ロータリー平和センターが主催または共催するものを含め、ICUにおいて開催される様々な公開公演、学術会議、シンポジウム等に参加する機会が与えられている。

秋学期にかけての２～３ヶ月間程度、自身の出身国以外の国・地域においてインターンシップに従事することが求められている。インターン先は平和フェロー自身で探すが、ロータリーが提供する国際機関リスト、各ロータリーセンター・平和フェローのネットワークなどのリソースを

利用することができる。これまでの主なインターン先としては、国連開発計画、UNESCO世界遺産センターなどの国連機関、コロンビア環境省、タイ法務省などの政府機関、そのほか多数のNGOなどがある。

・広島研修旅行・日本で平和について学ぶ者としての平和学習の一環として毎年、広島を訪れ４日間の研修を行っている。広島平和記念資料館、平和記念公園、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館への施設訪問、被爆体験証言のほか、広島平和研究所研究員との意見交換、国連訓練調査研究所（UNITAR）広島事務所への訪問などのプログラムで構成されている。

２年間の研究を終えて修了する平和フェローによる研究成果発表の場として、ロータリー平和センター主催で年次セミナーを毎年６月に開催しているが、私も出席させて頂きロータリー財団プロジェクト・ICUの平和研究カリキュラムの素晴らしさに感銘することができた。

修了生は日本に留まらず、自国や他国へ渡りその後のキャリアを積む者が多い。就職先としてはNGOが最も多く、中には自身でNGOを立ち上げた者もいる。次いで各国省庁などの政府機関、各国大学・大学院などの高等教育機関、国連環境計画（UNEP）や国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）などの国連関係機関、国際赤十字などの国際機関などである。また博士後期課程に進学する者も多くいます。

奨学金プログラムとしての平和フェローシップ・プログラムは、他の類似のプログラムと比べてもその支援内容はかなり手厚いものです。授業料の全額免除に加え、生活費、研究調査費、旅費（留学開始時・終了時の往復旅費および、日本からインターンシップ先国への渡航旅費も含む）などが支給され、返済の義務はない。将来国連機関や国際機関で働き開発や平和・紛争解決分野にかかわりたいと考えている人にとって、修士号は必須の資格要件であり、いわばパスポートのようなものである。そういった人々にとって本プログラムは非常に魅力的な奨学金プログラムであるといえるのではないだろうか。

私は、今年度2500地区初めての委員会委員長としての責務、委員長としての役割に関連するすべての研修を完了することになりICUのセンターセミナーなど世界の平和について多くを学ぶことが出来た事に感謝しております。

地区内クラブの皆様、ロータリー平和フェローシップ　ロータリー平和センタープログラムに（世界で平和構築に励む人材を紹介しましょう）ご理解を頂き支援のほどよろしくお願いします。

『私は、ためらうことなく断言できます。世界平和は達成出来る、と。さらに、友情、寛容、人の役に立つというロータリーの堅固な土台の上に平和を築くなら、恒久的なものにすることができます。』1940年RI国際大会でのメッセージ（ポール・ハリス語録）

グローバル補助金奨学生として中間報告

第2500地区グローバル補助金奨学生
田　中　佑　依

2019年９月より、グローバル補助金を頂きイギリスのサセックス大学院で学ばせて頂いております、田中佑依と申します。この度は、皆様の多大なご支援のお陰で、大きな学びを得させて頂けていることに、深く感謝を申し上げます。今回は、中間報告として、これまでの私の大学院での学びや生活について、ご報告させていただきます。

１．大学紹介・授業内容等

①　サセックス大学とコースについて

まず私の通っている大学院に関し、簡単にご紹介させていただきます。私は現在、イギリスのブライトンという南部海岸沿いの町にあるUniversity of Sussex（サセックス大学）という大学の研究機関Institute of Development Studies（IDS）（開発研究所）にて、MA Development Studies（開発学修士）を専攻し、途上国の開発について学んでいます。IDSの開発学コースは、世界の大学ランキング（QS World University Rankings）の開発学部門でハーバードを抜き、世界第１位に位置し、開発学を学ぶのであればいつかは行きたいと、かねてより夢見ていた大学院でありました。ランキング効果もあってか、同大学の他コースが１コース2～30名程度である一方、私のコースは100名を超す大所帯でした。意外だったのは、イギリス人の学生数が非常に少なく、９割以上が世界中からの留学生でした。また、アメリカには多くの有名大学があるにもかかわらず、北米からの留学生も多くいました（北米は大学院進学費用が非常に高額なことが理由の一つのようです）。キャンパスは緑に溢れた開放的な空間で、ウサギやリス、時にはキツネなどの野生動物がよく見られました。イギリスは天気が悪いということで有名ですが、私のいたサセックスは、北部の街に比べて天気の良い日が多く、とても住みやすい場所でした。

キャンパスの風景

クラスメイト

② **授業内容**

授業は１年間で、前期と後期にわかれ、前期は２科目、後期は４科目を履修します。前期では、必修科目である「Ideas in development and policy, evidence and practice」（開発と政策、証拠、実践における概念）という授業にて、途上国開発を様々な角度（政治・経済・環境・ジェンダー・格差、等）から学びました。

もう一つの科目は選択科目で、私は「Gender, Identity and inclusion」という、開発をジェンダーの視点から学ぶ科目を履修しました。途上国開発において、ジェンダー格差がもたらす影響は大きく、また私は将来、開発分野の中でも子供に関わる仕事をしていきたいと考える中で、女性の抱える問題を学ぶことは非常に役に立つと思い、この科目を選択しました。これまでジェンダーに興味はあったものの、確りと学んだことはなかったのですが、実際に学んでみると想像していた以上に興味深く、毎週授業が終わってしまうのが惜しくなるほどのめりこみ、毎回新たな発見がありました。また、ヨーロッパは女性の社会進出が日本よりも進んでいるだけでなく、大学のあるブライトンという町は、ヨーロッパの中でも有名なLGBTQ（性的マイノリティの方々）の街として知られており、マイノリティに対して寛容でオープンなことが特徴です。そういった町でジェンダー問題について学ぶことは、他の場所で学ぶのとまた違った意味があったように思います。

評価はどちらの授業も、グループプレゼンテーションと個人の論文によって行われました。必修授業のグループワークでは、４人のクラスメートと授業で学んだ開発学の理論について、実際の国と事例を挙げて説明・発表するというものでした。私のグループは、私以外にシンガポール人、インド人、バングラデシュ人と、全員がアジア人だったこともあり、アジアを中心に調べを進めていき、最終的に世界一幸福度の高い国と言われたブータンの開発政策について調べ、発表しました。選択科目でジェンダーに興味を持った私は、必修授業の論文でもジェンダーについてとりあげ、「Unpaid Care Work, Gender and Development」というタイトルで、世界中の女性がどれだけUnpaid care work（報酬の発生しない家事労働）により様々な弊害を被り、それが途上国において、国の開発にどのように悪影響を及ぼしているかということについて論じました。

選択科目であるジェンダーの授業では、グループワーク（こちらはアジア、中東、アフリカ出身者から成る７人グループ）で、ジェンダー政策の中で忘れられがちな男性に対する暴力に焦点を当てました。性的暴力と聞くと女性被害者をイメージしがちですが、内戦などの起こる国では男性に対する性暴力も多く存在します。しかしその多くが公にされることはなく、これらの被害者はサポートを受けられずにいます。私たちはスリランカの内戦で被害を受けた元兵士と彼等に対するスリランカ政府やNGOの支援政策に焦点を当てて発表をしました。個人の論文では、ジェンダーバイオレンスに関し、少し違った観点から学びたいと思い、日本の夫婦間における家庭内暴力、また中でも身体的な暴力ではなく、精神的暴力（心理的被害を与えるような言動）について、現在の日本の状況、日本で精神的暴力が生まれる背景（日本の文化や歴史）、そして日本の現在の法律がどのように女性の保護に寄与しているかを論じました。

クラスメイト

現在は後期にあたり、後期では、「Global childhood」（世界の子供学）、「Poverty, conflict and violence」（貧困、紛争、暴力）、「Nutrition」（栄養学）、「Research Design」（研究方法の立案・計画）といった授業を履修し、学んでいる最中です。

2．大学院での生活、イギリスでの生活

①　住まい

イギリスではキャンパス内にある大学の寮に住んでいます。同じ寮では計11名が生活しており、キッチンやトイレ、シャワーなどを共有で使用します。こちらも国際色豊かで全員が大学院、もしくは博士課程に所属しておりますが、それぞれ研究内容が異なり、食事中にお互いの研究や生まれ育った国の文化について話すのはとても楽しい経験です。授業がない日には、よく皆で集まり、それぞれの国の料理を作ってご馳走しあっています。日本でもルームシェアなどはしたことがなかったので、このような共同生活は初めてでしたが、フラットメイトのおかげでとても楽しい日々を過ごさせて頂いています。

フラットメイトとの夕食

②　イギリス、ブライトンについて

これまで私はヨーロッパ圏に住んだことはなく、今回が初めての経験となりました。ブライトンは人口約23万人、イギリス南東部のイースト・サセックス州西端に位置している街です。気候は他のイギリスの街と比べて比較的天候の良い日が多く、ロンドンからも電車で約1時間ほどでアクセス可能で、リゾート地としてイギリスの地元民からも人気を集めています。私はブライトンの中心部からバスで30分ほど離れたキャンパスの中に住んでおり、生活必需品の買い物もキャンパス内のスーパーやオンラインショッピングですべて事足りてしまうことから、あまり出歩く機会がそう多くはありませんでしたが、夏にはヨーロッパ最大のLGBTQのパレードと言われる「プライド」を見に行ったり、11月にはボンファイヤーナイトと呼ばれるパレード（松明を持ち中世時代の服装を来て町を練り歩くイベント）を見に行きました。

プライド（LGPTQ パレード）の様子

ボンファイヤーナイトの様子

3．ロータリアン、グローバル補助金奨学生との交流

滞在中は、私の受け入れを担当して下さったブライトンロータリークラブの皆さんだけでなく、ブライトンに留学する他のグローバル補助金奨学生との交流、またロンドンにてイギリス全土に留学する世界中からの奨学生との交流の機会もありました。ブライトンロータリークラブの例会は毎週水曜の昼にあり、授業と時間帯が被っていたことから、あまり数多くは参加できませんでしたが、自己紹介のプレゼンテーションをする機会を与えてくださったり、参加するたびにとても温かく迎えて頂きました。また、同じサセックス大学だけで、ロータリーの奨学生が10名もおり、彼等との出会いもまた私の留学生活に彩りを添えてくれました。

ブライトンRC会長・パットさんと

自己紹介プレゼンテーションの様子

奨学生仲間とともに

4．おわりに

現在は後期の途中ですが、昨今の新型コロナウイルスによる影響で、３月中旬よりすべての授業がオンラインになるなど、様々な影響が出ています。日々状況が刻々と変わる中、学生間にも大きな不安が広がっているように思います。一方、大学職員の方々は、私たちの学習機会がなるべく影響を受けないようにと、この混乱した状況下でも日々、最大限の力を尽くして私たちをサポートして下さっています。今後、私はオンラインで授業を受け、教授ともオンライン上でのミーティングの場を持ちながら、後期課題の論文４本と、卒業論文を作成していくこととなりそうです。今後に関しては、大学からもまだ正式な発表がないなど、まだまだ未確定事項が多い状況ですが、引き続き気を引き締めて、授業と課題に取り組んで参りたいと思っております。改めまして、この度は私の大学院進学に関し、皆様の多大なご支援をありがとうございます。頂いた機会を無駄にせぬよう、今後も確りと学んでいきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

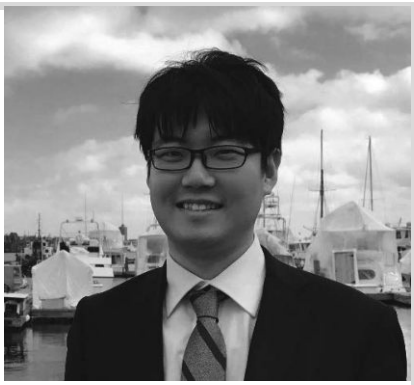
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース
ハイライトよねやま
Vol.242
2020年5月14日発行

1. 第４代よねやま親善大使が決定！

「第４代よねやま親善大使」には26人の学友から応募があり、広報委員会、常務理事会にて厳正なる選考の結果、下記３人の方に決定しました。任期は2020年７月から２年間で、日本全国でロータリー米山記念奨学事業をＰＲします。地区行事でのスピーカーとしてぜひお声掛けください。親善大使に関するご連絡は当会事務局広報担当まで。

カレン・ジュリア・ウォーターズ
（オーストラリア/1992-94/京都南ＲＣ）
(株)Global Waters 代表取締役社長、Burleigh Heads RC（第9640地区）会員。自らの事業では、日本の子どもたちへの国際理解教育と奉仕の心を育てることに尽力。2019年度より第2650地区米山学友会会長。

アドゥアヨム・アヘゴ，アクエテビ
（トーゴ/2014-15/新発田城南ＲＣ）
(株)ドリーム・ジーピー 研究員。アフリカで不足する義肢装具の開発研究に尽力。日本の義肢中古部品を活用した義肢をアフリカに提供する活動も。自ら手がけた義肢で東京パラリンピックにトーゴの選手を出場させる夢が進行中。



李 昱昊（リ イッコウ）
（中国/2016-17/東京銀座ＲＣ）
法律事務所にて国際法務に従事し、海外に進出する日本企業をサポートする一方、日中交流団体代表として両国の若者の交流促進に尽力。2018-20年度第2750地区米山学友会副会長、2019-20年度東京西RAC会長。

2. オンラインで奨学生と交流！―東京米山友愛RC―

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年のゴールデンウィークは“Stay Home”の呼びかけのもと、オンラインでの交流が奨励されました。４月から新しい米山奨学生を迎えた世話クラブからも、奨学生との交流にオンラインを活用した事例を報告いただきました。

日本在住の米山学友を中心に設立され、今年創立10周年を迎えた東京米山友愛ＲＣ（第2750地区）では、５月３日に新規米山奨学生の張準好さんを迎え、オンライン会議ツールZoomを使って、クラブで奨学生へのオリエンテーションを実施。当日は、張さんのカウンセラーで米山学友の朴貞子さん、クラブ支援奨学生の賈悦さんとカウンセラーのブリッタ・ズルツさん、同クラブでお世話した学友の韓瑜さんと李桐さんも参加し、米山記念奨学事業についての説明や自己紹介・近況報告、「オンライン飲み会」で、終始笑いの絶えない時間を満喫しました。朴さんによると、同クラブの４月29日のオンライン例会には、現役奨学生の張さん、賈さんと共に、以前クラブでお世話した米山学友もウズベキスタンから参加してくれたそうです。

3. 寄付金速報　― 減少幅広がる ―

4月までの寄付金は前年同期と比べて4.0%減（普通寄付金:1.8%減、特別寄付金:5.1%減)、約4,900万円の減少となりました。今後の見通しがなかなかつかないこともあり、先月同期比に比べ、より減少幅が広がりました。厳しい状況下にも関わらずご寄付をいただいた皆さまへ、厚く御礼申し上げます。これからも新型コロナウイルスとの闘いは続きそうです。引き続き米山記念奨学事業をご支援下さいますようよろしくお願い申し上げます。

4. 学友によるマスク支援続々

ここ数日、全国的なマスク不足が解消されつつあるという報道を目にするようになりましたが、これまでに多くの米山学友が続々と、母校やロータリークラブへ“恩返しのマスク”を寄贈しています。

神戸大学へ　大学附属病院などでマスクが不足しているとの声を受け、神戸大学留学生西日本同窓会の会長をつとめる米山学友・陳林さん（中国/2003-05/芦屋RC）ら元中国留学生が4月21日、大学に2万5,000枚のマスクを寄贈。

慶應義塾大学と世話クラブへ　中国・上海の元留学生ら22人と、上海三田会・旧友会会員78人からの寄付金などにより、中国でマスク6万枚を調達し、4月中に大学へ届けました。その一人である米山学友、肖慧潔さん（2008-09、現在：東京米山ロータリーEクラブ会員）は、奨学生時代の世話クラブ・東京白金ＲＣや、既にクラブを退会したカウンセラーにもマスクを送付。同クラブでは希望する会員・現米山奨学生・交換留学生（候補）に配布したほか、約1,000枚を地元の医療機関へ寄贈する予定です。林観照会長は「今回、思いがけず昔の米山学友からマスクを寄贈いただき、大変感謝しています。米山奨学事業の絆が形として現れたと思います。これからも奨学生をきちんとサポートしてまいります」と語ってくださいました。

台湾学友会　関西米山学友会元会長・何玉翠さんが発起人となったマスクの共同購入に、日本国内の学友個人や学友会、ロータリアンら多くが参加しました。台湾米山学友会も会員からの寄付でこれに出資し、購入したマスク3万枚を北海道名寄市役所へ寄贈するほか、同学友会の郭錦堂理事長が所属する台中文心ＲＣが日本の相模原中ＲＣと豊田中ＲＣへそれぞれ10,000枚を寄贈予定です。

ロータリアンからも感謝の声　全国に緊急事態宣言が出された夜、第2640地区元地区米山奨学委員長の京谷知明氏のもとへ米山学友から「何か出来ることはないか」と打診がありました。マスク不足の現状を伝えたところ、学友有志がマスク2,000枚を苦心しながら調達し、堺フェニックスＲＣへ寄贈。同クラブはそれを地元の高齢者福祉施設とクリニックへ、フェイスガードとともに寄付しました。京谷氏は「マスクと一緒に温かい気持ちを受け取り、クラブ一同、感謝の気持ちでいっぱい」と、語ってくださいました。

在宅勤務期間延長のお知らせ

緊急事態宣言が5月31日まで延長されたことに伴い、現在実施している事務局の在宅勤務を引き続き継続させていただきます。
【実施期間】5月31日(日)まで　※状況によって期間延長の検討をいたします。
【期間中の問い合わせ対応】原則として、メールにて対応をさせていただきます。詳細は当会HPまで。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011　東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3F
Tel：03-3434-8681　Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/
編集担当：野津(のづ)・峯(みね)

Rotary Region 1 & 2 & 3
コーディネーター NEWS
2020年6月号　No.1
発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

ロータリーのリーダーシップと最新の経営理論タイトル

ロータリーの「中核的価値観」の1つに「リーダーシップ」が「戦略計画」と共に掲げられて久しい。しかし、その意味について共通の理解があるのであろうか。人によって「リーダー」や「リーダーシップ」についてのイメージや意味するところが違うのは当然として、時代の変遷によってそのありように変化があり、新たに求められるものがあってもおかしくない。一昔前は「カリスマ的リーダー」が典型的なリーダー像であったように思う。「秀でた特殊な能力や専門的知識などの個人的魅力」で影響力を発揮するタイプである。その場合は大抵「リーダー→フォロワー（部下）」という垂直的な縦の関係がある。ところで、ロータリーにおいてその垂直的なリーダーシップのみで良いのであろうか。

時にそのようなリーダーシップも必要であろうが、優れた経営者や専門職が集うロータリーにおいて様々な役割や場面に応じて、一人ひとりがやはりリーダーなのである。近年、リーダーシップについて、経営学で主流となってきた理論に「シェアード・リーダーシップ」（SL）という考え方がある。「グループの複数の人間、時には全員がリーダーシップを執る」とする考え方だ。水平関係のリーダーシップということができる。これからの不確実性の時代のリーダーシップ論としてこの理論が注目されているようだ。

ロータリーにおいて、1人ひとりがリーダーであるならば、当然1人ひとりに「ビジョン（軸）」が求められる。地区やクラブのビジョンもさることながら「自分のビジョンは何か」、「自分は何者で、何をしたいのか」がすべてのロータリアンに求められる。何故なら、どのような団体であっても個人の集合体に他ならないからだ。近年の実証研究では、「従来型の垂直的リーダーシップよりも、SLの方がチーム成果を高める」とい結果が多く示されている。SLにおいて重要なのは十分な「対話（ダイアローグ）」である。対話によって個々人の「知」が活かされる。「新しい知は既知の知と既知の知の新しい組み合わせ」から生まれる。

近年の経営理論におけるリーダーシップの定義は「グループ内のある人が他のメンバーのモチベーション・能力を修正する時、それをリーダーシップという」である。「修正する時」とは、あくまで心理的に「他者に変化をもたらす」ことを指す。この場合リーダーとは「変化」を与える人、すなわち他者に「影響力」を与えることを指す。

「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています」。ロータリーの新しい「ビジョン声明」である。いま正に私たちは「持続可能な良い変化もたらす」ために個人としての「ビジョン（軸）」をしっかり持ち、「リーダーシップ」を発揮しなければならない。

第2地域ロータリー公共イメージコーディネーター　柳生　好春（野々市RC）

※　早稲田大学大学院教授 入山章栄著「世界標準の経営理論」に大きく依った。

COVID－19による「緊急事態宣言」のなかで思うこと

ロータリー年度末を迎えるにあたり、ロータリーを前進させるための各地でのご尽力に、心より感謝申し上げます。
新型コロナウィルスが蔓延するなか、ロータリークラブの活動や事業活動に懸命に取り組んでおられる皆様に心からのお見舞いと敬意を表します。前途多難な社会状況ですが、閉塞感打破に向け、共に頑張りたいと思います。

新型コロナウィルスはいつ、誰が感染してもおかしくない中で、自らが罹らないこと、そして不運にも感染した時は、他の人達にうつさないようにすることが、ロータリアンとしての社会的責任でしょう。

政府の緊急事態宣言により、外出を極力控えるように強く要請され、在宅ストレスがたまっていると思います。ストレスの発散方法や免疫力アップに効果がある食材等の情報が数多く発信されていますので、参考にして遊び心を忘れずに「離れて繋がる」ことを心がけましょう。

3月以降、ロータリーはクラブ・地区ともに例会・行事・セミナーや奉仕活動などを中止・延期されたと思います。一方でこの間に、ビデオ・インターネット・WEB等を使用した、これまでと違った方法で開催された活動も多くあるのではないでしょうか。ご苦労はあったでしょうが、今後のクラブや地区の運営に活かされることでしょう。

日本は災害列島と言われ、毎年のように自然災害が発生します。その上に今回のパンデミックが起こりました。
ウィルス性感染症は20世紀に8回（1918年のスペイン風邪では、世界中で多くの死者が出ました。）、21世紀に入りすでに3回も発生し、努力と知恵によって克服してきています。

各種ある危機の中で、最も死者が多いのがウィルス性感染症です。
人は平常に戻ると、すぐに忘れるものです。目の前の敵と闘いながら、風化しないうちにこの経験を活かし「次に備える」ことが重要です。

ウィルス性感染症は不幸なことにこれからも必ず発生するでしょう。
今回の新型コロナウィルスも、必ず克服し、「次への備え」によって、社会の発展に繋がることと、確信しています。
人が集まって行う奉仕活動がほとんど不可能な中でも、ロータリアンとロータリークラブができることは多くあります。草の根的な活動ですが、コロナと闘っておられる人達にエールをおくったり、困っている人達に支援の手を差しのべたりすることはできるでしょう。

インターネットやWEB等を使った動画の発信によって、人々を「ワクワクドキドキ」させ、感動と希望を与えることができます。また、自らとロータリーファミリーが実施している素晴らしい奉仕活動を、家族・友人・知人に話すことやクラブや地区のホームページとMy ROTARYに投稿することができます。

周囲の人達にロータリーの奉仕活動を示し、語ることによって、ロータリーファミリーの絆を深め、公共イメージ向上にも繋がることになります。
「ひとりひとりが広報マン」を心がけましょう。

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐　片山　勉（大阪東RC）

Rotary Region 1 & 2 & 3
コーディネーター NEWS
2020年6月号 No.2
発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

戦略計画についてのアンケート結果

第3地域におきましては2019年に引き続き、現ガバナーエレクト('20～'21年度DG)にお願いし"戦略計画についてのアンケート"を行いました。今年は第1地域、第2地域でもほぼ同様のアンケートを行いました。新型コロナ感染拡大によりロータリー各種会合が延期、或いは中止となり、皆様方にアンケート結果をご報告をする機会がございませんが、近い将来人間の英知、ロータリアンの結束力でコロナ禍を克服した暁には、日本の34地区・全国のクラブの"戦略計画に対する取り組みの現状"を皆様方にお示しできるものと思います。

2019年では11地区中1地区に地区戦略計画委員会(地区ビジョン委員会)の設立がありませんでしたが、2020年では全ての地区に設立されていました。しかし、3地区では未活動との返答を戴きました。地区ビジョン、或いは地区中期目標を策定している地区は7／11(2019年5／11)、検討中は3／11(2019年2／11)、未決定は1／11(2019年3／11)と多くの地区でそのビジョンを掲げ活動をされています。地区ビジョンの必要性が浸透してきている結果であると推察できます。

クラブ戦略計画(ビジョン)委員会設置については、最も多い地区は82.5%、次いで78.1%、73.8%、69.3%、50%、39.4%、25.4%、16%の順でした。残る3地区は設置をしているクラブもあるが実態を把握していない、との回答でした。昨年未確認の地区が2地区ありましたが、今回は3地区となっています。先にパーセンテージを示した8地区は全ての地区でクラブ内での委員会設置数が増えています。

地区内各クラブはクラブのビジョン、或いは中長期目標を決めているか？との問いについては、それぞれの地区内クラブで85%、47%、40%、37%、36%、31%、7%、3%の割でクラブの進むべき方向を決め、活動をされています。各クラブでのご努力に感謝を申しあげます。この項では、昨年より方針を策定しているクラブが減っている地区が見受けられます。

ロータリーの単年度制から脱却し、持続性を持ったクラブ運営を行うために、是非クラブ内で再討議をして戴きたく存じます。なお、3地区が未確認との回答でした。

国際ロータリーが地区・クラブの活性化のために、2002年にDLP(地区リーダーシッププラン)を、2004年にはCLP(クラブリーダーシッププラン)を推奨致しました。その後、2007年にStrategic Plan(長期計画)、2010年にはStrategic Plan(戦略計画)を打ち出し地区・クラブの活性化・会員増強を持続的に推進するように働きかけました。また、ロータリークラブの特性である単年度制を考慮しつつ、持続性のある即ち数年後を見据えた地区・クラブの目標・ビジョン・活動計画を考えることを推奨しました。

今回の結果から、地区、そして多くのクラブにおいて、それぞれのビジョン或いは戦略計画を立案し、実践することの必要性・重要性を認識されつつある、と考えられます。

地区・クラブ戦略計画(ビジョン)委員会を有用に活用され、地区・クラブの活性化・会員基盤向上・会員増強にご努力されることをお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染もやや衰えを見せつつありますが、第2波・第3波の襲来が必至と思われます。油断をせず感染予防に万全の措置を執りながらロータリー活動を続けられますことを祈念申し上げます。

第3地域ロータリーコーディネーター　高島　凱夫(大阪中之島RC)

文　庫　通　信 [382]

ロータリー文庫通信382号　2020年4月　新型コロナウィルス禍の下で

新型コロナウィルス感染の拡大はロータリー活動に多大な影響を与えています。ハワイでの世界大会は中止となりました。国内においても、ＰＥＴＳや地区大会の中止を余儀なくされました。その中で、特に「幻の講演」となったD2650地区大会ＲＩ会長代理の鳥居ＰＤＧの「ＲＩ現況報告」を掲載します。

また「緊急事態宣言」により、外出の自粛を要請され在宅時間が多くなり、ロータリーについて考える機会が与えられました。そこで今回は、115年を超えるロータリーの歴史の中で、ロータリーの奉仕哲学とその奉仕の実践に関する基本原理を簡明かつ的確に表現している「決議 23-34」について、更に、国際ロータリーという組織の本質は何かを考える意味で、2019 年規定審議会で事務総長に与えられた「ＣＥＯ(最高経営責任者)」という名称が何を意味しているかについて、考えていただければと思います。

書　名	著者/出版社　等	発行年	頁	※
ＲＩ現況報告「ロータリーの変遷と本質」（D2650地区大会　ＲＩ会長代理）	鳥居　滋／／岡山東ＲＣ D2690ＰＤＧ	2020	13P	※
決議23-34はロータリーのキイ・ホイントである　（増補改訂版　関西ロータリー研究会）	末積　正／神戸ＲＣ D268	1987	125P	※
決議23-34　歴史的背景と意味（D2680 職業奉仕講演会）（P.P.T.174枚）	刀根 荘兵衛／敦賀ＲＣ D2650ＰＤＧ	2018	１７Ｐ（29P）	※
CEOとして最強の権限を与えられた事務総長（追加資料提供：D2650ＰＤＧ刀根荘兵衛）	田中　毅／尼崎西ＲＣ D2680ＰＤＧ	2020	４Ｐ（13P）	※

・上記 ※印はデジタル化されている資料です。

＊資料の検索は文庫ホームページから　http://www.rotary-bunko.gr.jp

＜デジタル化資料＞

主なデジタル化資料はこちら　Click！

こちらをクリックすると、デジタル化資料の中で、おすすめの書籍資料リストをご覧いただけます。

新入会員の紹介

●第１分区
〔利尻島ロータリークラブ〕
大沼 百合子（おおぬま ゆりこ）
●電気工事業
●1953年2月2日生
●2020年4月1日入会

●第５分区
〔美幌ロータリークラブ〕
山本 大介（やまもと だいすけ）
●地方金融
●1975年8月8日生
●2020年4月1日入会

●第５分区
〔美幌ロータリークラブ〕
本間 経治（ほんま けいじ）
●郵便事業
●1964年5月1日生
●2020年4月1日入会

ロータリー財団寄付者

組	寄付の種類	氏　名	クラブ名	寄付月日
1	PHF	山下 優（やました まさる）	稚内南	4月9日
6	PHF	藤井 宏（ふじい ひろし）	清　水	3月11日
6	PHF	上田 充代（うえだ みつよ）	清　水	3月16日

物　故　会　員

■第５分区　留辺蘂ロータリークラブ

1998年　1月入会
2000年　クラブ幹事

永易 洋一（ながやす よういち）
交通車両
2020年4月21日逝去
（85歳）

■第６分区　帯広東ロータリークラブ

1998年　5月入会
ロータリー財団寄付（PHF）

佐藤 堅一（さとう けんいち）
和食料理販売
2020年4月22日逝去
（78歳）

■第６分区　帯広東ロータリークラブ

2001年　7月入会
2006年　会計（理事）
2011年　職業奉仕理事
2013年　社会奉仕理事
2015年　会計（理事）
2018年　会計（理事）
2019年　クラブ奉仕理事
ロータリー財団寄付
（MPHF＋1）
米山記念奨学寄付
（米山功労者１回）

宮前 克則（みやまえ かつのり）
ビルメンテナンス
2020年5月15日逝去
（71歳）

RI2500地区

例会出席率及び会員数推移

2020年４月末報告

分区	クラブ名	例会数	出席率（%）	会員数 2019年7/1	当月	増減	女性会員
1	礼文	0	0.0	14	15	1	0
	利尻	0	0.0	18	18	0	0
	利尻島	0	0.0	12	12	0	2
	天塩	1	72.3	8	11	3	2
	豊富	1	100.0	20	21	1	1
	稚内	2	62.0	46	43	－3	2
	稚内南	1	61.0	36	36	0	2
	計		42.2	154	156	2	9
2	美深	0	0.0	25	26	1	0
	枝幸	1	42.3	23	26	3	0
	名寄	1	100.0	59	62	3	2
	中頓別	2	78.1	16	16	0	0
	士別	2	92.7	48	47	－1	1
	下川	2	90.1	4	6	2	0
	計		67.2	175	183	8	3
3	旭川	0	0.0	69	70	1	0
	旭川東	1	※	34	33	－1	0
	旭川北	1	74.4	41	44	3	1
	旭川南	1	78.1	33	32	－1	0
	旭川西	1	73.5	45	50	5	5
	旭川東北	1	※	15	15	0	2
	旭川モーニング	0	※	25	23	－2	4
	旭川空港	4	100.0	12	13	1	3
	美瑛	1	※	25	28	3	0
	富良野	0	※	46	46	0	3
	上川	3	70.0	10	10	0	0
	2500REクラブ	3	96.3	22	20	－2	1
	計		70.3	377	384	7	19
4	遠軽	3	73.7	42	41	－1	3
	紋別	3	62.2	31	31	0	0
	紋別港	0	0.0	33	32	－1	0
	中湧別	0	0.0	10	11	1	0
	興部	0	0.0	16	15	－1	0
	雄武	2	69.0	11	13	2	0
	滝上	3	62.7	17	17	0	2
	計		38.2	160	160	0	5
5	網走	1	68.6	51	52	1	9
	網走西	0	0.0	50	52	2	0
	美幌	1	74.1	58	58	0	5
	北見	0	0.0	57	55	－2	4
	北見東	0	0.0	56	54	－2	2
	北見西	0	0.0	65	63	－2	0
	清里	0	0.0	29	30	1	0
	留辺藥	0	0.0	24	23	－1	1
	斜里	0	0.0	37	35	－2	4
	計		15.9	427	422	－5	25
6	足寄	0	0.0	30	30	0	1
	広尾	0	0.0	22	22	0	0
	上士幌	0	0.0	15	15	0	0
	芽室	0	0.0	22	28	6	1
	帯広	0	0.0	89	88	－1	6
	帯広北	0	0.0	63	65	2	2
	帯広西	0	0.0	74	75	1	3
	帯広東	0	0.0	38	38	0	2
	帯広南	0	0.0	72	72	0	8
	音更	1	71.0	38	35	－3	3
	清水	0	0.0	18	18	0	2
	計		6.5	481	486	5	28
7	釧路	2	80.1	95	100	5	1
	釧路東	2	48.0	33	34	1	0
	釧路北	1	52.0	77	78	1	3
	釧路南	1	50.0	29	30	1	5
	釧路西	1	50.0	28	27	－1	1
	釧路ベイ	1	85.0	20	20	0	1
	音別	2	69.0	16	16	0	0
	白糠	1	72.7	10	10	0	0
	計		63.4	308	315	7	11
8	厚岸	3	72.5	16	17	1	0
	別海	3	54.9	17	17	0	0
	浜中	4	79.1	12	12	0	0
	中標津	0	0.0	21	21	0	0
	根室	0	0.0	38	37	－1	0
	根室西	0	0.0	50	53	3	0
	弟子屈	0	0.0	18	18	0	1
	計		29.5	172	175	3	1
総計			41.6	2254	2281	27	101

※印　メーキャップの規約改定により提出のないクラブです

第2500地区	19年7/1会員数	当月末会員数	増減	平均出席率
全67クラブ	2,254人	2,281人	27人	41.6%
女性会員数	98人	101人	3人	

★帯広北ＲＣの１月末～３月末の会員数に誤りがありました。正しくは１月末65名、２月末66名、３月末65名です。
★コロナウイルスの影響により、休会あり
★旭川空港ＲＣはコロナウイルスの影響により、ＦＡＸ例会となりました。

Rotary

http://rid2500.jp

■ガバナー事務所

〒085-0016　北海道釧路市錦町５丁目３
三ツ輪ビル２Ｆ
TEL 0154-61-0018　FAX 0154-61-0017
E-mail:rid2500-kushiro@orion.ocn.ne.jp

■GOVERNOR OFFICE

MITSUWA BLDG.2F　5-3,Nishiki-cho,Kushiro-shi,
Hokkaido,085-0016, Japan
TEL +81-154-61-0018　FAX +81-154-61-0017
E-mail:rid2500-kushiro@orion.ocn.ne.jp

霧の釧路湿原

国際ロータリー第 2500 地区
２０１９▶２０２０　ガバナー

吉 田　潤 司